

	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
1	ABAのABC分析をもとに利用者のことを考えることができるようになった。OJTとしてみんなに伝達する予定ができた。(1月末から2月初旬)	現場の業務の忙しさによって、1つの出来事に対してみんなでミーティングする余裕がなかなかできない。	<p>(長瀬講師より) AとBとC、行動を3つの箱に分けることで、チームに共通言語が生まれます。それだけでも、大きな一歩です。</p> <p>(亀井講師より) いずれの手法であれ、「利用者のことを考えることができるようになった」ことは素晴らしいですね。福祉現場は忙しいと思いますが、数人でもいいので、一つの出来事に対して話し合える職場にしたいですね。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 太田ステージによる判別とそこからの対応方法 記録をより細かく記入するようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の業務に追われ、時間を消費してしまって、なかなか取り組めない。 具体的な計画、アクションにのぞむ際、ケースバイケースによりたぬらってしまう。 	<p>(亀井講師より) 福祉現場の業務の忙しさのなかで、なかなか取り組めない→利用者の状態が良くならない→ますます業務に追われてしまう、という悪循環が起きやすくなります。認知発達に応じてTEACCHIによる構造化(環境整備やスケジュール呈示など)をし、ABAの技法を取り入れることで、利用者の方たちが落ち着き、対応も楽になります。具体的な計画はもちろんケースバイケースですが、太田ステージによる発達評価に基づいた実践の蓄積により、個々の現象面に惑わされることなく考えられるようになりますので、計画立案にかかる時間の短縮につながります。最初の一步に労力を要しますが、がんばってください。</p>
3	行動に対する前後の状況等のデータ取りの重要性を改めて感じた。	一人ひとりに合わせた環境設定、特に感覚(過敏・鈍麻どちらも)に関して。	<p>(長瀬講師より) 一口にデータをとる、と言っても回数・持続時間・強度・率などなど、ターゲットとする行動によって記録するデータが違ってきます。そのあたりもさらに深めてください。</p> <p>(渡邊講師より) 一人一人の評価が大切ですね。感覚処理問題について、理解を深めること、またそのアセスメントが重要です。</p> <p>(亀井講師より) 問題行動の出現にはその人なりの理由があることが多いです。本人に理解しやすい環境設定ではないために、本人が混乱することもありますし、思いがけないことに不快感を感じ我慢できないということもあります。発達レベルに応じて、本人がまわりの状況をどう理解し、どう感じているのかをくみ取って、環境設定及びことばがけをしていくことがとても大切です。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 小さな変化に喜びを感じる。 よい行動を増やすレパトリーを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者39人中24人が自閉症、18人が強度行動障害でスタッフ人数が少ないため、「対象者をよく知る、よくみる作業をくり返す」ことや構造化(場面の意味と見通しを伝える)環境整備がなかなかできない。 	<p>(長瀬講師より) 毎年同じことを言います。18人が「強度行動障害」。その対処をしないというのは、現場の責任ではなく、管理職の運営管理の責任です。</p> <p>(渡邊講師より) 自閉症のある方の特性を理解するための組織的なアプローチに続け、個々の凸凹を評価するアセスメントを実施することがポイントだと思います。なぜその構造化を行うのか説明できることが大切になります。</p> <p>(亀井講師より) 18人が強度行動障害とは大変な現場ですね。その中で、「小さな変化に喜びを感じる」ことができるのは素晴らしいと思います。まずは、対象者の認知発達レベルを適切に把握し、太田ステージ別に共通する環境整備をすると驚くほど落ち着くことがあります。一人ひとりへの対応、と考えると大変なことです。共通性を見出してやってみると、少ない人数で対応する工夫が生まれるかもしれません。始めの一步が大変とは思いますが、ぜひ、やってみてください。</p>
5	2日目のインシデントプロセス法で検討事例に挙げて頂いた事でその成果を持ち帰り、全国の支援に関わる人達から、沢山のアドバイスやヒントを頂いた事を当事者である息子と一緒に見ました。息子は「こんなに沢山の人が僕の事を真剣に考えてくれたなんて！！嬉しい！！」喜んでいました。僕の事を考えてくれる人達がいる事が、本人の励みになった様です。この時の講師の先生にまたお会い出来る事が判り、札幌で勉強会をされた際に息子もつれて一緒に受講しました。そして・・・息子の昼夜逆転がすっかり直りました！本人が主体的に生きる事を真剣に考え、自らが動き、今迄の問題とこれからを考え自分を変えるきっかけになりました。私は保護者の立場で参加させて頂きましたが、このセミナーがきっかけで出会えた講師の先生がきっかけで私達親子の道が拓けました。大きな大きな第一歩です。		<p>(渡邊講師より) ご家族と支援者が、一緒になって子どもを理解するプロセスが重要だと思います。具体的な解決策を導き出す会議の技法を使うことで、有意義な話し合いができます。</p> <p>(亀井講師より) 嬉しいご報告ありがとうございます。いろいろな人が支えてくれている、と感じることは本人や支援者にとって励みになりますよね。何より、このセミナーでの講師との出会いが、本人が主体的に生きることを真剣に考えるきっかけになった、というのは、素晴らしいことですね。ぜひ、その経験をお聞かせください。</p>
6	利用者本人が好きな事、楽しい事を伝えられるように、紙を用いての視覚的支援が出来るようになった。また、その内容を職員全員で情報共有することが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> 行事や夜勤などの時間を日中の中で割かないといけない為、個人(利用者)だけに時間を割くことが出来ない。 生活支援だけ集中して取り組めるような人員配置がなかなか実現しない。 	<p>(長瀬講師より) 利用者さんとの間に、共通言語が生まれたのですね。素晴らしい実践です。</p> <p>(亀井講師より) 「利用者本人が好きな事、楽しい事を伝えられるように、紙を用いての視覚的支援が出来るようになった。また、その内容を職員全員で情報共有することが出来た。」とのこと。これは、利用者にとっては「わかってもらえた」という満足感がありますし、職員にとっては「へー○○さんはこれが好きなんだね」と共感する気持ちが生まれます。利用者とのコミュニケーションが増え、職員の働きがいにもなることと思います。このことが問題行動の改善にもつながります。一石二鳥の取り組みですね。</p>

	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
7	応用行動分析、TEACCH、認知発達治療の考え方やどこにポイントをあてればよいかはよくわかり、とりくみに生かせると思います。	実践においては、アセスメントができるだけ正しく、速く行えるようになるには経験が必要かと思ひ、全て行えるようになるには経験が必要かと思ひ、全ての職員が可能となるためにはどのような方法がよいかと考えてしまいます。対象者がかわる場合が複数あると、方向性や方針の統一がされていた方がよいと考えますが、当方の機能として難しく、どのように行うのがよいか悩みます。	<p>(渡邊講師より) チームアプローチを組織に根付かせるために、機関コンサルテーションを活用することも1つの作戦です。</p> <p>(亀井講師より) 「応用行動分析、TEACCH、認知発達治療の考え方やどこにポイントをあてればよいかはよくわかり、とりくみに生かせると思います。」とのこと、良かったです。まずは、わかった人から始めてください。最初から方向性や方針を統一するのはなかなか難しいことですね。アセスメントの視点が分かる人がいて実践的に積み重ねられていけば、必ず周りの人に影響を及ぼします。利用者にとって良いことは、時間をかけて実践の中で明らかになります。焦らず「継続は力なり」です。</p>
8	セミナーの中でインシデントプロセス法の技法を使った会議を実践できたことで、現場でも今一番難しいケースの利用者さんについて会を持ち、学んだことを参考にしながらすすめることができた。この中の話で、どこに問題があるのか、何がいったい問題なのか、ということについて、焦点を整理することの必要性を改めて感じる事ができ、基本に立ち返ることができた。	ABC分析を実践したいと考えたが、どうしてもその行動に対するきっかけがつかめず、実践できていない。	<p>(長瀬講師より) きっかけ、たしかに見つけることが難しいです。分かりやすい・取り組みやすい課題から積み上げていくことで、より困難な課題が見えてきます。</p> <p>(亀井講師より) 「インシデントプロセス法の技法を使った会議を実践」したことで、問題を整理することができたとのこと、会議の持ち方で変わるものなんですね。職員一人ひとりが自分なりに考えたことで効果があったのでしょうか。ABC分析そのものではなくても、行動が出現した状況、何故その行動を習得してしまったのか、生産的な行動に変化させていくにはどのような環境設定と働きかけが必要なのか、それを話し合うだけで職員の心持が変化し、それが伝わって、問題行動が改善することもあります。まずは実践してみてください。</p>
9	<p>・ホワイトボードを使用しての会議 出てきた意見を視覚で確認することで、課題を整理しながら会議を進めることができた。</p> <p>・ポストイットを使用しての会議 普段の会議では若い人が意見を言わなかったり、言えないことが多い。また、同じ人ばかりが意見を出していることもあったが、ポストイットを使用することで今まで思っていたが発言しなかった・できなかった意見があがるようになった。また、書いたことを発表することで、会議に参加している全員が発言する機会ができた。</p>		<p>(長瀬講師より) 会議の工夫、素晴らしいです。</p> <p>(亀井講師より) ホワイトボードとポストイットの使用で、ずいぶん会議が充実したのですね。良かったです。福祉現場では、経験の長い、強い意見の人に周りが流されてしまうということがよくあります。何か違うんじゃないか、と感じている人が意見を出しやすくする工夫って大切ですね。改めてそう感じました。貴重な気づき、ありがとうございました。</p>
10	応用行動分析の手法を用いて、自傷行為のある利用者の行動分析を行った。ケース記録を基に、行動の働きや背景について分析した結果、本人の体調や他利用者との共同のパソコンを交代する見通しが持てないこと、本人の訴えが上手く支援者に伝わらないことによるイライラが自傷行為に繋がる傾向にあることが推測された。これに対し、体調については保護者との情報共有、見通しについては使用する時間帯を他利用者と明確に分け、要求面については本人・職員共通のジェスチャーの定着を図った。現在、自傷の頻度は減少傾向にあるが、今後も行動分析を継続していく必要があると感じている。	チーム一体となって一貫した支援の提供をすることに難しさを感じた。理由としてはセミナーで学んだ内容の周知不足、支援者間での課題に対する共通認識のばらつきが考えられる。	<p>(長瀬講師より) 「体調不良」「見通し」など行動問題の的確な機能分析ができています。素晴らしいです。</p> <p>(渡邊講師より) チームアプローチのためファシリテーションの技術が欠かせませんね。インシデントプロセス方法を用いて、建設的な会議の繰り返すことで組織力を上げていきたいです。</p> <p>(亀井講師より) 早速ABAの手法を用いた実践で、原因別に対策をたてられ、自傷が減少傾向にあるとのこと、良かったですね。何より、利用者の方の情緒安定になったのではないのでしょうか。「チーム一体となって一貫した支援の提供をすることに難しさを感じた」とのこと、どうしても共通認識のばらつきはありますよね。職員のパーソナリティの特徴もありますので、大枠この方針で、という取り組みができたことは素晴らしいと思います。</p>
11	ABAを用いてよい行動を増やすことが出来ました。対象者を様々な視点から見通すことにより、いつ、どのタイミングで問題行動をおこしやすいのか、何を好み何を嫌うのかを改めて発見することができました。そのお陰で感情の起伏が激しかったのが収まり、以前より安定した状態で過ごせる様になりました。	一対一で向き合う時間が安定して取り組まれないため。構造化等を用いてその人自身に仕組み、流れを伝えるのが難しい。	<p>(長瀬講師より) 「いつ、どのタイミングで問題行動をおこしやすいのか、何を好み何を嫌うのか」上記の方の事例と同じように行動問題の的確な機能分析ができています。素晴らしいです。</p> <p>(渡邊講師より) 自閉症のある方の特性を理解するための組織的なアプローチに続け、個々の凸凹を評価するアセスメントを実施することがポイントだと思います。なぜその構造化を行うのか説明できることが大切になります。</p> <p>(亀井講師より) ABAを用いて良い行動を増やすことができた、とのこと、良かったです。普段、利用者に対して直接的な関わりをしていると、どうしても感情的反応が生まれやすいと思います。何らかの手法を用いて分析することで、自分の関わりも含め客観的に事態を把握できるようになる、そこに研修の意義があるのですね。現場に生かしていただいて、ありがとうございます。</p>

	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
12	<p>応用行動分析の講義で用いたプランシートをそのまま活用している訳ではないが、プランシートを参考にしてご利用者の行動問題へのアプローチ方法を考えている。また、TEACCHの講義で学んだ「構造化」の具体的な活用方法、アイデアを日々の支援にとりいれている。</p>	<p>フロア職員全体で共有し、統一した支援を行うことが定着するまで時間が必要。ご利用者一人ひとりのお一日のルーティンを細かく知ることが難しい。(時間、職員数等)</p>	<p>(渡邊講師より) ワークシートを用いるなど、記録を追記して、みんなで作成してはいかがでしょうか。</p> <p>(亀井講師より) 研修で学んだことをご自分なりに考えて活用していらっしゃると思います。利用者一人ひとりの一日のルーティンを細かく知ることが難しいですが、行動問題への予防的対応を考えるうえで、大枠つかんでおかれるといいと思います。状態像からおおよそ太田ステージのどの段階か分かれば、行動問題へのアプローチの方法が考えやすくなります。</p>
13	<p>今まで問題となっている行動に対して、その行動だけをみてしまいがちだったが、冰山モデルを生かし、なぜそのような行動をしてしまうか、考える力が身についた。また、その利用者だけをみてしまっていたが、まわり等全体でとらえることで問題を見つけることも現場で生かすように努力をしています。</p>	<p>応用行動分析(ABA)/TECCH・認知発達治療(太田ステージ)・TAOを研修で学ばせていただいたが、どの利用者さんにどの方法が合っているのか、分からなく、なかなか実践に生かすことが難しいと感じました。</p>	<p>(渡邊講師より) どれか一つが効果があるわけではありません。全てが必要です。アセスメントをして、環境を整えて主体性を引き出し、それでも生じる困難さに適切に応じることが大切です。</p> <p>(亀井講師より) 「なぜそのような行動をしてしまうか、考える力が身についた。」ということは、実践に生かしていると思います。福祉現場でよくありがちなのは、利用者に対して「こんなことしちゃだめですよ！」と、感情的反応をしてしまうことです。「なぜそのような行動をしてしまうか」を考えること自体が既に改善へ向けた取り組みになっていると思います。ABA・TECCH・太田ステージはどれを選ぶべきか、というより、密接に関連し合っています。まずは、善かれ、と思うことを実践してみてください。</p>
14	<p>・全利用者に対して、検査・評価をし、ステージにあった支援方法を探ることを実行することにした。 ・日々の活動とステージの特性にあった支援方法とを見直すことができる。また、説得力を持って支援にあたることができる。</p>	<p>・検査の実施から、評価・分析の部分で検査者の熟練した資質が問われるところ ・ステージに対して、スタッフ全員の共通理解を得ること 評価を踏まえて実践に取り込むこと</p>	<p>(亀井講師より) 全利用者に対して検査・評価、支援を実行されるとのこと、忙しい日々の中で大変なことだろうと思いますが、1回やるとずいぶん楽になりますので、めげないで続けてみてください。大切なのは、ステージの共通理解より、ステージを軸にした利用者理解を深めることです。そこから、利用者への共感が生まれ、そのことで関係性が良くなり、といった良循環が始まります。</p>
15	<p>・応用行動分析を活用したことで破壊行為の減少に繋げることができた。 ・TEACCHを活用したことで作業工程の流れを覚える利用者がいた。 ・職員研修で研修報告をして、この研修内容を他職員が実践に生かすことができた。</p>	<p>自分自身が上手く伝えることができずにほかの職員の知識が不足していたためか、共通理解、共通実践に結びつけることが難しい。</p>	<p>(渡邊講師より) インシデントプロセス方法を用いて、建設的な会議の繰り返すことで組織力を高めていきたいです。</p> <p>(亀井講師より) 破壊行為は社会参加の妨げになってしまいますね。減少できて良かったです。応用行動分析で明らかになった要因、支援方法を意識化して、これから継続し、効果を持続させてください。自閉症の方が理解しやすい方法で、作業工程の流れなど呈示すると、本人が安心すると思います。職員の共通理解は時間をかけてじっくりと、ですね。引き続きやっていきましょう。</p>
16	<p>施設全体としてはほとんど生かしていません。個人的に「問題行動」を「行動問題」として捉えること等の考え方や会議でのポイント等、学んだことを少しずつ実践しています。</p>	<p>中途半端なことは却って現場を混乱させてしまう為、しっかり勉強して取り組む必要があるが、その余裕が持てない。職員の問題意識の統一も簡単なようで難しい。</p>	<p>(長瀬講師より) 困った行動は、個人と環境との相互作用により生じる。この視点を持っておられるだけでも大きな一歩だと思います。</p> <p>(亀井講師より) まずは、個人的に学んだことを少しずつ実践できていけば素晴らしいことだと思います。確かに、職員の問題意識の統一は難しいです。「問題行動」を「行動問題」として捉える、といったような、物事の見方・考え方を変えれば、気持ち・行動が変わります。そのことは、少しずつ周りの職員にも波及して行くことと思います。少しずつ実践していきましょう。</p>
17	<p>構造化というところで、現在施設内で取り組んでいることを見直すことができました。現在はなかなか取り組むことができていませんが、太田ステージや応用行動分析を活用していけるようにしたいと思います。</p>	<p>人員が少ないため、日々の日課をこなすことがやっとの状態で、知識共有したり、学んだりする場を設けることが難しいです。知識のある人が少ないため教えることも厳しく、何より職員間の学習に対する温度差が大きい状況があります。</p>	<p>(渡邊講師より) チームアプローチを組織に根付かせるために、機関コンサルテーションを活用することも1つの作戦です。</p> <p>(亀井講師より) 職員間の意識の温度差は、どこでもネックになっていますね。でも、前向きな人たちが複数いてコツコツとやり続ければ必ず変わってきます。忍耐力が必要かもしれませんが、励まし合える人がいるといいですね。より良い支援へ一歩でも進めてください。</p>

	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
18	<p>講座の全てが現場で生かせるのではないかと感じました。しかし、いざ現場で生かすとすると、私が勉強不足・経験不足であることを実感するだけで何もできていません。そこで、一つひとつを少しずつ学習しているところです。利用者様の心の世界を少しでも理解できるよう、8月に行われる太田ステージの講義にも参加したいと思っています。今のいま、現場で生かせることは、講師の方々がおっしゃっていた”あきらめない”という言葉です。くじけそうになることが日常茶飯事です、そのうど”あきらめない””あきらめない”と唱えています。こうした素晴らしいセミナーを開催して下さったことに参加させていただけたことに感謝します。</p>	<p>質問から今までの受講者の多くの方が実践できず思い悩んでいることが実感されました。連盟としては、実践できないことが前提だと理解しました。人間と環境の相互作用という視点から考えれば、理由の一つは私です。私の能力のないことが理由です。何とか支援をしながら、しないように凶られています。利用者様に食事を与えて、寝ていただくだけの支援員です。意識の高い支援を求めているも実際はさせません。美字麗句を述べるおは上手でも、支援内容は下劣です。例えば、チームアプローチの重視を掲げ、支援はこの次です。建設的な議論すら行えません。逆に結局悪いのは私で、チームアプローチを乱すものとされています。</p>	<p>(長瀬講師より) ABAでは、自分(他人)を責めることを、「個人攻撃の罠」といいます。いけてねー、、、とご自身を否定するのではなく、出来る・分かる・やれる、小さな一歩、具体的な行動を実践してみてください。</p> <p>(亀井講師より) 「講座の全てが現場で生かせるのではないかと感じました」とのこと、ありがとうございます。いろいろと悩み多き毎日をご過ごされていることと思います。「利用者様に食事を与えて、寝ていただくだけの支援員」といっても、生活の基本は食事と睡眠ですから、とても大切なことだと思います。本当に「おいしい食事の提供」ができていますか(食事内容だけでなく、食事環境、コミュニケーションを楽しみながら食事できているか等)また、「健やかな眠りの保障」ができていますか(気持ちよく入眠できているか、夜間目が覚めてもすぐに安心して再度入眠できるか、目覚めは気分良いか等)、日々の生活を食事と睡眠という基本から考えてみることも大切かもしれません。</p>
19	<p>自閉症スペクトラムの利用者の方に構造化を行うことによって本人のパニックを減らすことができた。また、不適切な行動を適切な行動に変えていけるように学んだことを活かして支援している途中である。</p>	<p>私の職場では、臨床心理士の職員がおり、分からないことがあればすぐに質問できたこともあり、実践につながっているが、ほかの職場では今回のセミナーの内容を知らない職員が多いと思うので、それらの職員にまで内容をきちんと伝えて一緒に支援していくのはかなりの時間がかかるのではと感じる。</p>	<p>(亀井講師より) 臨床心理士の職員がいるので実践につながりやすい、とのこと、心強いです。現場に、客観的な位置から利用者や職員の関わりをみれる人がいて相談できると、職員の気持ちが少し楽になることと思います。利用者側の視点からみて理解しやすい環境・ことばがけについて見直していただけると、不適切だと思っていた行動は、本人にとっては致し方ない、そうせざるを得ないところに追い込まれた結果なんだということもあります。そう理解すると、適切な行動として表現できるよう手助けしたくなるのではないのでしょうか？そんな発想の転換をしていただけるといいと思います。</p>